

令和2年度 都城島津伝承館企画展

H O N G O S A N D A I

北郷三代

ただすけ ただちか としひさ

忠相・忠親・時久と戦国時代

中興沿革図説 天文19年(1550)の図
中興沿革図説は、戦国期から安土桃山期における南九州の勢力図を、江戸時代に図化したものです。都城には北郷忠相が記されています。

◎問い合わせ
都城島津邸 ☎ 23-2116

戦国時代の南九州はまさに激動の時代。島津本家は薩摩・大隅・日向三国(現在の鹿児島県全域と宮崎県の南西部)の統一を果たすと、九州北部にまで戦線を広げ、九州のほぼ全土を席巻しました。その後、豊臣政権に敗北。豊臣大名として、朝鮮出兵・太閤検地と、困難な出来事に直面していくことになります。

一方、都城地域では、盆地北西部の一領主であった島津家分家の北郷家8代当主忠相と9代当主忠親が、都城盆地の統一を果たし、島津本家に大きな影響を与えるまでに勢力を拡大させます。

それを受け継いだ10代当主時久は、北郷家最大の版図を誇り、島津本家との関係において政治的・軍事的地位を確固たるものとししました。後の鹿児島藩における都城島津家3万5千石の基礎をつくりあげたのもこのときです。



国重要文化財
細糸威紫白肩裾胴丸大袖付

今回の企画展では、この激動の南九州を生きた忠相・忠親・時久の三代と戦国時代に焦点を当て、彼らの生涯に関連する史料を展示して紹介します。

●会期 8月1日(土)～10月11日(日)

●観覧料

一般 220円(160円)

大学生・高校生 160円(110円)

中学生以下無料

※(一)内は20人以上の団体料金

●展示史料

【鉄鎧地南蛮胴具足】

(県指定文化財・都城島津邸蔵)

8代当主忠相が着用したよろい、全国的にも珍しい鯨のヒゲがかぶとの脇に付いています。また、胴部は真ん中が尖った形になっていて、戦国時代後半に流行した南蛮胴を取り入れていることが分かります。

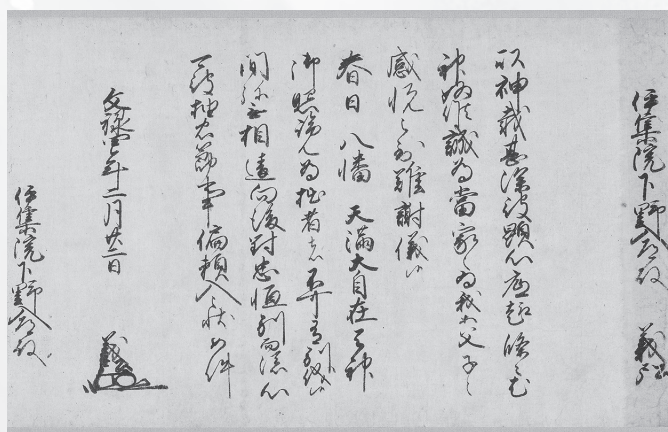


【島津義弘書状】

(伊集院文書・鹿児島県立図書館蔵)

文禄4年(1595)2月、島津義弘が島津本家家老へ出した書状で、それまで島津家や義弘父子に対し忠

誠を尽してくれたことに対する謝意が記されています。また、非常に珍しい、義弘の花押を見ることが出来ます。



【新納院高城古戦場図】

(都城島津邸蔵)

天正6年(1578)に島津氏と大友氏が山城・高城(現・児湯郡木城町)を中心に激戦を繰り広げた小丸川の合戦場を近世になって絵図にしたもので、開戦前の島津軍の配置がよく分かります。

